

近隣住民参加型の避難訓練をととした防災機能の強化

◆事業の背景及び目的

本学への近隣住民の一時避難者数は10,829人と想定されているが、応急避難場所としてのキャンパスの機能や有効性、問題点等を検証し改善する必要がある。このため、学生や教職員、地域住民も含めた大規模な地震避難訓練を実施し、学校施設が一時避難場所としての役割をどのように果たすことができるか、どのような対応が不足しているかを具体的に認識し今後の改善に資することを目的とする。

◆実施体制



- * リスクマネジャー会議は副学長をリーダーとして教員及びリスクマネジャーを含む事務職員で構成
- * 防災Day実行委員会はリスクマネジャーを含む事務職員で構成
- * リスクマネジャー：有事の際に危機管理業務に従事し、各部局と協力して危機事象の発生時の初動対応を行う大学事務職員
- * 文部科学省プロジェクト班は吹田市及び近隣自治会等と連携して事業を実施。

◆事業のスケジュール・流れ

- 5月～7月 リスクマネジャー会議の開催（実施計画の策定）
- 8月～10月 実行委員会の開催（実施に向けた準備等）及び吹田市・地域自治会との打合せの実施
- 10月26日 近隣住民参加型の地震避難訓練の実施
- 11月～ 実行委員会の開催（課題の整理や問題点の洗い出し等）、防災マニュアル等の作成

◆主な取組内容

- 本学の機能や有効性、問題点等を検証するため、千里山キャンパスの学生・教職員に加え、地域住民を含めた学内外一体型の地震避難訓練を実施。
 - * 約1万人の学生等に加え、約400名の地域住民が参加
 - * 巨大地震発生を想定し、自宅から千里山キャンパスへ避難。自治会毎の避難を想定し居住地域ごとの整列を学生ボランティアが誘導。
 - * 避難者の安否情報を記入するマークシートの活用
- 地域住民間・家族間の安否情報を共有するため、「安否確認のための伝言掲示板」を、地域住民の避難場所である北広場に設置。



地震避難訓練の様子



- 吹田市と本学の防災への取組に関する情報を地域住民に提供し、地域住民から大学への要望を集約する「意見交換会」を実施。
- 通信手段が遮断された場合、本学が有する避難者情報等を吹田市に伝達する方法等を確認・検証するため、吹田市の協力のもと、本学から吹田市役所まで徒歩により危険箇所等の確認を行うとともに情報共有の方法等を検証。
- 地域住民により、本学が備蓄する炊出し用の設備・機材を利用した“炊出し訓練”を実施。
- 地震避難訓練の検証結果をもとに、近隣住民用のポケット防災マニュアルを作成・配布。



地域住民との意見交換会の様子



炊出し訓練の様子



ポケット防災マニュアル

◆事業成果

- 地震避難訓練：約400名の地域住民の参加を得て、学内外一体型の避難訓練を実現でき、貴重な意見・要望も得ることができた。一方、一時避難所として機能するためには、以下の課題への対応が必要であり、今後、対策を検討し具体化する必要。
 - ・ 北広場の出入口の増設、避難場所の分散化等の対策、トイレの場所を示す掲示等の設置
 - ・ 北広場入口の階段（30段）をのぼるための援助者・介助者として、学生ボランティアを配置する等の対応
- 伝言掲示板の設置：利用者から伝言掲示板の活用が有効との声。一方、記載に時間がかかることが課題であり、記入時間の短縮のために、想定される内容を記号選択式に変更する、付箋を利用する等の改善が必要。
- 意見交換会：参加した地域住民から大学の防災力強化につながる貴重な意見を得た。アンケート結果と意見交換会での意見・要望の両面から、今後の対応を検討することが必要。
- 情報伝達方法の検証：電話・メール等が不通、電車等の交通ライフラインが機能しない場合は、予め提供する情報等を整理した「情報共有シート」を利用し、徒歩で吹田市役所に向かい相互の情報を交換することが有効であることが確認された。
- 炊出し訓練：炊出し訓練の参加者から好意的な意見が寄せられた。今回は、設営、食材確保、火おこし、給仕、誘導等は大学側が担当したが、今後は、実際の有事を想定し、一連の作業を地域住民主体で実施する仕組みを検討する必要がある。
- ポケット防災マニュアルの作成：持ち運び可能なコンパクトなサイズで作成したが、高齢者への配慮が今後の検討課題。地域住民からの感想等を聴取し、改訂版作成の材料としたい。また、ITツールの変化にあわせて一定期間での見直しが必要。

関大防災Day2013 ～広がれ！みんなの安全・安心！～

日 程 10月17日(木)
場 所 関西大学 千里山キャンパス(下図参照)

参加無料！

Q. 関大防災Dayって何？

A. 関大防災Dayは関西大学独自の防災啓発行事です。当日は災害対策用品の紹介、保存食の試食、防災に関する取り組みを紹介するテントブースの設置や、実際に消火器を使用して炎を消す消火体験など、様々なイベントを実施します。



防災イベント

- ①防災講演会【マルチメディアAV大教室(尚文館内)】(14:40～16:10)
 - ・日本赤十字社大阪支部 木村弘之氏による講演会。テーマは『救護活動時の現実』。東日本大震災での救護活動、また国際救援現場で直面した課題や今後の防災に必要なものについて講演いただきます。
- ②炊出し試食会【総合図書館前】12:00～配給実施終了まで)
 - ・近隣住民の皆様が腕をふるい、調理した炊出しメニューをご試食いただけます。
- ③防災啓発ブース【総合図書館前～悠久の庭前】(12:00～15:30)
 - ・防災への関心を高め、防災意識を共有できるよう、災害用品の紹介、保存食の試食、防災に関する取り組みなどを紹介するテントブースです。
- ④応急処置等簡易体験【新関西大学会館北棟】(13:00～16:00)
 - ・日本赤十字社の協力により、応急処置に関する基礎知識と基礎実技を身につけるための講習会を実施いたします。
- ⑤煙体験【総合図書館前】(12:00～15:00)
 - ・吹田西消防署の協力を得て、テントハウス内に人体に無害な煙を発生させ、火災発生時における煙の怖さと避難方法を体験できます。
- ⑥水害時避難訓練【総合図書館前】(12:00～15:00)
 - ・実物大ドア模型を用いた浸水時避難体験。実際に浸水した場合、どのくらい水位が上がればドアを開けることができるかを体験することができます。
- ⑦消火器使用・消火栓放水体験【総合図書館裏】(12:00～15:00)
 - ・実際に消火器を使用してオイルパンの火を消す消火体験、及び屋外消火栓を使用して放水することにより、実際の水压等を体験することができます。
- ⑧避難器具体験【尚文館及びハイテク・リサーチ・コア】(12:00～15:00)
 - ・避難器具を使用しての降下避難を体験することができます。
- ⑨大阪府保健所における「食と防災」の取り組み紹介【防災啓発ブース】(12:00～15:30)
 - ・大阪府の特定給食施設が災害時にどのようにきょうするか紹介するとともに、災害時の食事や栄養補給の重要性についてのパネルを展示します。
- ⑩吹田市危機管理室の取り組みの紹介【総合図書館前及び防災啓発ブース】(12:00～15:30)
 - ・吹田市で備蓄しているアルファ化米を実際に調理・配布する。
 - ・段ボールベッドや簡易トイレ等、吹田市が準備している災害時備蓄の主要な物品について紹介する。

※①「防災講演会」・④「応急処置等簡易体験」は、事前申し込みが必要ですので、関西大学総務課(関大防災Day係)6368-1111(内線2217)までお問い合わせください。



主 催: 関西大学 協 力: 吹田市危機管理室 日本赤十字社大阪府支部

関大防災DAY2013 防災講演会

命を救う活動の現実と課題

救護活動時の現実

～ あなたは **+** の意味を知っていますか？～

【主催】関大防災Day2013 実行委員会

日 時 10月17日(木) 14:40～16:10

会 場 関西大学 尚文館1階 マルチメディア AV大教室

講 師 木村 弘之 氏 (日本赤十字社大阪府支部 事業課 救護係長)

<講師プロフィール> きむら ひろゆき

1999年、日本赤十字社大阪府支部に入社。日赤近畿ブロック代表支部として本社および近畿ブロック各支部間、また大阪府支部として大阪府内の病院等施設間の、国内救護における連絡調整を主に担当。

> 過去の派遣経験

(国内) 2004年 新潟県中越地震 第1班

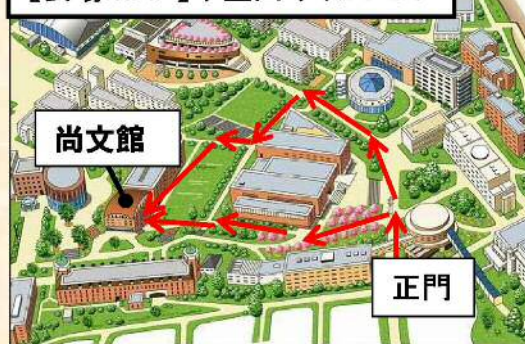
2011年 東日本大震災 第1班、第6班帯同物資移動班、第15班

(国際) 2007年 ケニア洪水救援ERU第2班



《ケニア洪水救援ミーティングの様子》

【会場MAP】千里山キャンパス



(事前のお申込も受け付けています。詳しくは裏面をご覧ください。)

※参加費は不要です。聴講自由ですので、直接会場へお越しください。

国際活動に従事したい！
ボランティア活動に関心がある！
被災地の復興活動に協力したい！など、
みなさん奮ってご参加ください！